

# ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業「先導的 ELSI 研究プログラム」

## 平成 29 年度実施 研究開発課題 中間評価報告書

ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業  
「先導的 ELSI 研究プログラム」  
研究開発課題評価委員会

### 1. 事業概要

本プログラムは、「ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業」をはじめとする、各省連携プロジェクト「疾病克服に向けたゲノム医療実現化プロジェクト」等を視野に入れながら、①社会の理解と支持が得られずゲノム研究の停滞を生じさせる状況が顕在化している ELSI や、②ゲノム医療等への社会実装を見据えた際にゲノム研究の停滞を生じさせることが予見される潜在的な ELSI について、「①事例研究」と「②中長期的な視点にたった研究」の両面から課題解決を図っていくことを目的として、平成 28 年度から開始したものである。

### 2. 評価方法

「ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業「先導的 ELSI 研究プログラム」課題評価委員会設置要綱」（平成 29 年 4 月 1 日改定）および「ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業「先導的 ELSI 研究プログラム」課題評価実施要綱」（平成 28 年 11 月 25 日制定）に基づき、書面評価及びヒアリング評価を行った。

### 3. スケジュール

(1) 中間評価報告書提出	平成 29 年 12 月 15 日 (金)
(2) 中間評価報告書の書面審査	平成 30 年 1 月 9 日 (火)
(3) 課題評価委員会 (ヒアリング審査)	平成 30 年 1 月 15 日 (月)
(4) 課題評価委員会 (第 2 回)	平成 30 年 2 月 7 日 (水)
(5) 中間評価結果の研究者への通知	平成 30 年 2 月 末

### 4. 評価項目

#### ① 事業趣旨等との整合性

- ・ 事業趣旨、目標等に合致しているか

#### ② 計画の妥当性

- ・ 全体計画の内容と目的は明確であるか
- ・ 今までに蓄積してきた ELSI 研究の成果やノウハウを踏まえた計画となっているか

- ・年度ごとの計画は目に見える成果の達成に向けた具体的なものになっているか
- ・若手研究者の人材育成が段階的な育成プロセスに基づき図られているか

③ 学術的・社会的意義及び優位性

- ・独創性、新規性を有し、社会的ニーズへ対応するものであるか
- ・ゲノム研究分野及び ELSI 分野の進展に資するものであるか
- ・「事例研究」と「中長期的視点からの研究」に基づく計画となっているか
- ・国際シンポジウムの提案内容（目的・対象等）に十分な工夫があったか
- ・国際シンポジウムでの討議が、その後の具体的な成果へとつながるものか

④ 実施体制

- ・申請者を中心とした研究開発体制が適切に組織されているか（研究の目的や内容に応じて、実行性のある研究チームが組まれているか等）
- ・ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業「先端ゲノム研究開発」（GRIFIN）との十分な連携が図られているか
- ・PS・PO と綿密に意見交換を行ったうえ、その指導・助言の下で、計画の実施に当たってきたか

⑤ 所要経費

- ・経費の内訳、支出計画等は妥当であるか

⑥ その他事項

- ・申請者等のエフォートは適切であるか
- ・生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守した計画となっているか

⑦ 総合評価

- ・①～⑥を勘案して総合評価する。

## 5. 研究開発課題中間評価結果

対象となる研究開発課題（1 課題）について、研究開発課題評価実施要綱に基づき、課題評価委員会にて書面審査・ヒアリング審査による中間評価を実施した。

次ページ以降に、委員会として確定した評価結果を示す。

研究開発課題名	学際連携に基づく未来志向型ゲノム研究ガバナンスの構築
代表機関	大阪大学 大学院医学系研究科
研究開発代表者	加藤 和人

### ① 活動状況の評価

- ・ 早急の課題（6 つの事例研究）と4つの中長期的課題の挑戦的設定と、それらに対する一定の取組や努力は評価できる。しかし、そうした広範囲の課題に、これまで内外で蓄積されてきた ELSI 研究の成果やノウハウを十分に踏まえた取組となっておらず、研究計画通りの進捗とは言い難い。具体的かつ着実な成果の創出には、それぞれの研究項目に対する追究方法の改善が求められる。
- ・ 研究開発を推進させるべく、ELSI に関する第一線の研究者を研究開発分担者・協力者として複数参画させようとしたことは、実施体制構築上の努力として認める。しかし、研究開発協力者から十分な協力を得られていたとは見受けられず、また、統括グループと3つのサブグループの間で十分な連携が図られているとは言い難い。
- ・ 国際シンポジウムを開いて、著名な ELSI 研究者を海外より複数招聘し、ゲノム医学研究をめぐる ELSI に対応するための国際的ネットワークを構築しようとしたことは、一定の評価に値する。しかし、現時点ではシンポジウムでの議論によりいかなる具体的な研究成果が得られたか明らかでなく、また、ELSI 研究者の裾野の拡大や ELSI に関する議論の深化にも至らなかったと判断せざるを得ない。
- ・ 若手人材育成に関して、本事業に若手研究者たちを参画させて育成しようと努めたことは認める。しかし、採択条件のひとつとして求めていた段階的な育成プログラムの明示等については、対応が不十分である。

### ② 今後の活動への期待

- ・ 先端ゲノム研究開発(GRIFIN)の研究班へのアンケート実施により、研究現場の ELSI に関する現状把握を試みた点は、有意義であり、評価に値する。今後も、ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業におけるゲノム研究開発の発展に資するような、GRIFIN 研究班との連携に基づく ELSI 研究に注力していただきたい。

## 5. 研究開発課題評価委員リスト

◎ 位田 隆一 滋賀大学 学長

掛江 直子 国立成育医療研究センター 臨床研究開発センター 生命倫理研究室長

PS 春日 雅人 国立国際医療研究センター 名誉理事長

PO 菅野 純夫 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授

増井 徹 慶應義塾大学 医学部 臨床遺伝学センター 教授

◎は委員長

※敬称略・五十音順